

次の文章を読んで、問1～問7の問いに答えなさい。

① ⑩は、それぞれ段落を示す番号である。

1 昨今の若い人々は、自分にとって不都合なものを、目に触れる世界から追い出してしまい、認知の対^①象としない傾向を強めているように見受けられます。ある大学生は、自分にとって不都合な相手からのメールや電話に対しては、携帯電話に着信表示も着信音も出ないように設定していると述べて、そのことを「^(注1) 圏外にしている」と表現していました。

2 自分と異質な人間を圏外へ追いやり、同質な人間だけとつながろうとする心性は、携帯電話の普及によって広まったものではないでしょう。しかし、^②このような心性を持つ人々にとって、携帯電話を最先端に置くネット環境が好都合なものであることは事実です。

3 時間と空間の制約を受けることなく、異質な人々がつながり合うことを技術的に可能にしたネットという便利なシステムが、一方ではまた、同質な人々がつながり合うことを容易にする手段としても、^③大いに役立っています。広大なネット空間へ開かれた携帯電話の小さな窓をのぞき込むことによって、面倒で不都合な相手とは触れ合うことなく、自分にとって心地よい相手だけと、即座に人間関係を築くことができるのです。

4 つまり、人間関係を異質な他者へと広げていく手段としてではなく、

むしろその関係の狭小化をさらに促進する手段として、携帯電話を用いる傾向が強まっているのです。

5 若い人々の中には、今の自分というものは将来も変わらないと思っている人もいるかもしれませんが、本来、自分とは、想像する以上に意外性を秘めた存在であり、自分の想像を超えて変化していくものはずです。私たちは、自分にとって異質なものを、自分の中に併せ持っているのです。日常生活の圏外に対して^(注2) セキュリティをいくらか強化しようと、また、その圏内への監視の目をいくらか緻密化しようと、この^④内なる圏外からの逃げ道はありません。

6 そうだとしたら、異質なものを圏外へと追いやるのではなく、むしろその異質さと折り合いをつけつつ、いかに生きていくべきなのか、私たちには、その知恵が問われていることになります。理想と全く異なる不本意な自分と出会ってしまったとき、うわべだけを取り繕うような希望や癒^いやしの言葉に安易に逃げ込むことなく、むしろ自分が押しつぶされてしまいそうな不安の中にあえて踏みとどまり、その受け入れがたい自分を受け入れていくには、どうすればよいのでしょうか。

7 そのためには、不本意な自分、異質な自分と向き合う力を身に付けておくことが大切です。振り返ってみれば、現在のよう便利なコミュニケーション手段がなかった時代の人々は、避けたくても避けようのない不都合な人間や、向こうから迫ってくる異質な人間との付き合い^{いやり}を通じて、実は、不本意な自分、異質な自分との付き合い方も、否応

なしに学ばされていたのではないのでしょうか。異質な他者の視点から自分を相対化して眺める力は、理想と全く異なる不本意な自分に出会ってしまったとき、その不安からパニックになるのを防いでくれる耐性力にもなっていくのです。

8 そもそも私たちは、いくつもの異なる人間関係を^(注3)多元的に営むことによって、複数の視点から自分を相対化できるようになるものです。その結果、特定の一つの関係だけに極端に依存しなくてもすむようになっていくのです。真に自己の安定を得るためには、たとえ一時的には自己肯定感が揺らいだとしても、異質な他者とも付き合っていかなければなりません。そうやって多種多様な人間同士の人的ネットワークの網の目の中に、自己肯定の基盤を見つけていかなければならないのです。

9 現代は、ネット環境の発達でコミュニケーションが便利になった反面、多種多様な人間と出会う機会をAに設けていかないと、自己の耐性力も育ちにくい時代なのかもしれません。

10 今、私たちが考えるべきなのは、目先の安心だけを求めて自分たちの生活圏を物理的、心理的なゲートで外部から閉ざすことではなく、むしろそのゲートを異質な世界へ向けて開放していくことではないでしょうか。今の自分というものにとらわれずに目を見開いていけば、身近な世界の中にも異質な要素を見いだせますし、異質な世界の中にも自分と同質な要素があることに気がつくはずですよ。そのようにして

自己肯定の基盤を見つけていくことが、多種多様な人間関係を広げることにつながっていくのです。

(土井隆義の文章による。)

(注1) 圏外⇨ある範囲の外。携帯電話などでは、電波が届かず通信ができない状態にあること。

(注2) セキュリティ⇨安全性。

(注3) 多元的⇨多くの立場や要素がある様子。